

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）高等学院 長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [富田航]

学年・組・番号 [1 年 C 組 12 番]

研究課題： 練馬城の復元～豊島氏関連城郭から探る縄張り～

Restoration of Nerima Castle-The relationship between the castles of
Toshima clan and their fiefdom.
(英文)

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

練馬城は明治時代まで城郭として非常に良好な状態で残存していた。その後、内郭部での開発の影響を受け、地上に残る遺構はわずかとなってしまった。ただ、先行研究や残された豊富な写真、残っている地形から練馬城を復元することができるのではないかと考えた。そのため練馬城にどのような役割があり、縄張りを持っていたのかを検討しようと思った。まず練馬城の現地調査や国土地理院の地形図から城域を確定させ、城を守っていた谷がどのようなものだったのかを考えたい。また、主郭部の発掘調査の結果、写真を利用し主郭部の土塁や堀の高さを確定しようと思う。そして、この城の築城者である豊島氏や城が築かれた当時の歴史の流れを書籍等の文献資料から読み取り、練馬城の役割を踏まえた縄張りのあり方を考える。同じ領主が築いた城郭の縄張りには類似性が見られることが多いため練馬城と同じ豊島氏が築いた城の特徴を捉え、練馬城の縄張りの復元に繋げる。

研究成果

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

国土地理院地図 1936 年航空写真を見ると周囲は田畑になっているが人家が密集している場所がある。その範囲は東京近郊史蹟案内にある練馬城の城域の記述とほとんど一致する。現地を歩いてみるとその境界線には谷が巡っており、さらに外側にも別の谷があり自然地形を大いに生かした城郭だったことが分かった。構造に関しては石神井川に面した台地の先端に主郭を配し、地続きになっているところには空堀を掘り、南側からの侵攻を警戒して築かれたことが分かる。研究の副題にある通り、築城者が同じ城郭については構造が類似するという大名系城郭論のもと練馬城以外の豊島氏の城郭から練馬城の縄張りを復元しようと考えていた。ただ第一に一般論とされていた大名系城郭論は城郭研究者が指摘するように出所があまりに曖昧でこれについての検証を抜きにして豊島氏の城郭を考えることはできないと思ったため今回は省略する。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 1 年 C 組 富田航

研究分担者

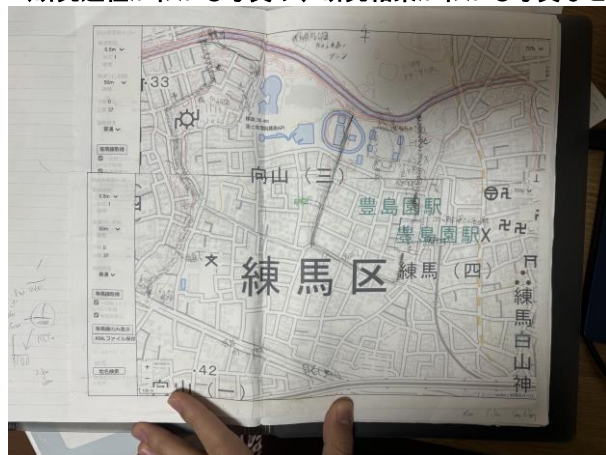
担当教諭 柿沼亮介

(受給額：26000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



調査で分かった谷の位置



製作中の模型



練馬城

以上